

4,000ボルト以上を確保する

電気柵は、電気の痛みにより、電気柵が「怖いもの」だと思わせることで侵入を防ぐものです。電気がしっかり野生鳥獣の体に伝わるようにすることや、慣れを防ぐことが、その効果を引き出す秘訣です。



① 農地に行くたびに、テスターで電圧を計る



ここが
大事!

有効な電圧(4,000ボルト以上)になっているか、普段から測定するクセをつけましょう。

② 24時間通電!



ここが
大事!

昼間も獣はやってきます。24時間通電して、電気柵は怖いものと学習させましょう。

③ 通電しないなら撤去する

※国費で導入した場合、原則撤去ができません。



「電気柵は怖くない」と思わせないために、通電しないなら撤去しましょう。

④ 柵線に草が触れないように草刈りを徹底!



柵線に草が触れると漏電の原因になります。通電性の防草シートも有効です。

⑤ 柵の周りの見晴らしを良くする



見晴らしを良くすることで、獣が近づきにくくなります。

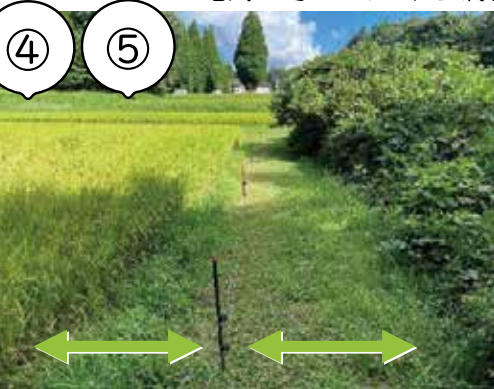
①

ここが
大事!



気づかぬうちに柵線やアース線を草刈り機で切ってしまうと、電気が流れていなかった…というのは「あるある」です。有効な電圧(4,000ボルト)になっているかを確認するため、普段からテスターで電圧を測定するクセを付けましょう。

電気が通るように、金属線が編み込んであります。



②

24時間通電!
ソーラー電源も
オススメです。



ここが
大事!



漏電しないように草刈りをしっかりしましょう。
柵の外側も見晴らしを良くすることで、獣が身を隠してじっくり突破口を探す場をなくせます。
草刈りの手間を減らすため、通電性の防草シートを用いるのも効果的です。